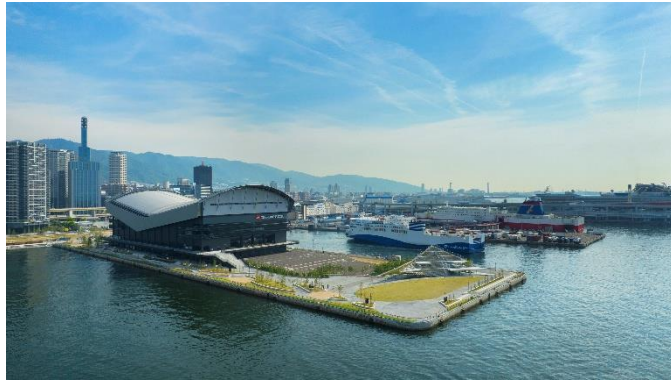


GLION ARENA KOBE (旧称：神戸アリーナ (仮称)) <評価ポイント>

※多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ選定事業において、選定の際特に評価されたポイントを記載しています。

【ポイント①】まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナの実現

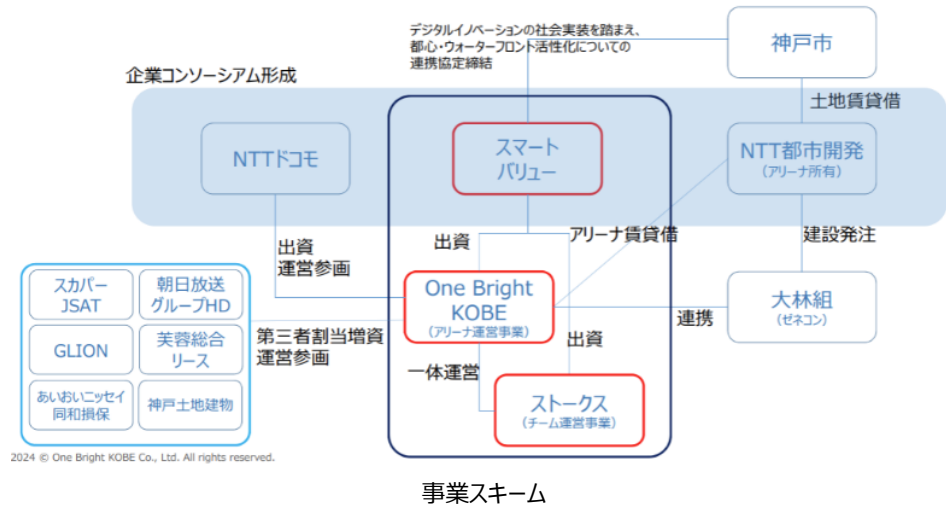
- 日本初270度海に囲まれた突堤に建つ水辺のアリーナは、神戸ウォーターフロントエリアの新たなランドマークとして、365日を通した賑わいづくりを目指し、**新たな魅力と活力ある都心・ウォーターフロントの創出に寄与**。
- 2024年2月に「港湾環境整備計画」として認定を受けたアリーナ周辺の緑地区域（エリア名称「TOTTEI PARK」）に建設される建物は、**アリーナと一体で運営**される。
- 全国で初めて「**港湾環境整備計画制度（みなと緑地PPP）**」を活用し、**収益施設の運営によって得られる収益の一部を公共整備や緑地の維持管理に還元**することで、地域経済の活性化や住民サービスの向上に寄与する。



施設外観イメージ

【ポイント③】民間活力を活用した手法の採用

- クラウドサービスを軸に行政デジタル化やスマートシティ等を手掛ける(株)スマートバリューと(株)NTT ドコモが運営し、NTT 都市開発(株)が開発を担う**3社企業コンソーシアムによる、民設民営のランドマークプロジェクト**である。
- アリーナの運営は(株)スマートバリューと(株)NTT ドコモの2社が出資して設立した(株)One Bright KOBEが行う。
- アリーナ運営を行う(株)One Bright KOBEとチーム運営を行う(株)ストークスが**一体運営を行うことで、より自由度の高い事業展開を実現**する。



【ポイント②】IT・データの活用

- アリーナを基点としたスマートシティモデルの推進**として、ハード、ソフト、デジタル、ソーシャルの4つがつながるSmartest Arenaをコンセプトに、人と人、人とまちがつながるコミュニティ共創事業「**Commons Tech KOBE**」を推進し、**蓄積データを用いたイベント開催に伴う回遊性向上策を実施**。
- 街中へのビーコンの設置及びTOTTEI KOBE公式アプリ活用により、**アリーナの訪問者データの収集や情報の発信、スタンプラリー、キャッシュレス決済などの機能を提供**。

【ポイント④】多様な利用方法や用途の実装

- MICEや音楽興行での利用を想定し、コンクリート床を採用**している。また、多様な興行への対応や自主コンテンツの創造へチャレンジするため、ハイグレードスピーカーを常設し、**常設機材と持ち込み機材のハイブリッド**でコンサートを実施することができる。
- アリーナ内に11tトラック等の車両の乗り入れが可能な搬入口を備えているため、**機材等の運搬を効率化**できる。開業以来実施した興行は、ほとんどが撤収日なく作業を完了できており、興行主のコスト削減に寄与している。その結果、興行主から選ばれるアリーナとなり、**多様なイベントの開催が可能**となる。

お問合せ先 (株)One Bright KOBE (電話番号) 0570-030-120
<https://www.totteikobe.jp/>